

海外見学者受け入れ再開

COVID-19 は、ようやく第7波が落ち着いてきたと思いきや、本稿執筆時には新規感染者数がすでに反転しており、まだ警戒を緩める状況ではない。いったいいつまで続くのかと、いわゆる“コロナ疲れ”も感じる。一方、行動制限を再開しないという方針を政府は明示し、出入国における水際対策も大幅に緩和された。

当科では2022年4月以降、諸条件を満たした海外見学者・留学者を受け入れるようにした。すでに研修を終了し帰国された方もいるが、この7ヵ月で11人に達した。やはり中国人が7人と多く、他はスイス人、ブルガリア人、インド人、アルゼンチン人である。コロナ前から来日を希望していたもののそれがかなわず2年間待ちわびていたからか、みなさん非常に熱心に見学している。以前はオベ室に見学者全員が揃うわけでは必ずしもなく、一部は観光などに出かけているのだらうということがままあったが、この7ヵ月ではあまりないようである。

11人のうち、ブルガリア人とスイス人はリピーターである。前者は2020年春に1ヵ月超滞在したが、コロナがあつたという間にまん延し、事実上ロックダウンになる直前、ブルガリアに戻る最後の便で帰国した。またチャンスがあれば来日したいと言ってはいたが、こちらは話半分に近い。ただ、本人はしごく本気だったようで、2022年の3月に水際対策が緩和されると、まだ研修期間が2ヵ月残っている（もともとトータルで3ヵ月の予定だった）と主張し、7~8月に再来日となった。スイス人は以前本欄で触れたこともある肝胆脾外科の教授で、今回で19回目の来日という古強者である。桜が好きということで、春に来日するのが今まで定番だったが、「秋の日本もいいぞ」とお勧めしたところ、来春まで待っていらなかったのか、10月にやってきた。日光の紅葉やちゃんこ鍋など久しぶりに日本を堪能したようだ。インド人は日本肝胆脾外科学会の International Observership による来訪で、当科での研修に加え、松山市で開催された第34回日本肝胆脾外科学会学術集会に参加して発表する機会もあり、充実したプログラムとなったようだ。インドでは味わえない日本食ということで天ぷら屋にご招待したが、慣れない手つきで箸を使いながら、生まれて初めてという種々の食材にチャレンジしていた。彼は日本の食事や文化には概ね好意的だったが、「冷たい飲み物に氷を入れるのは納得できない、十分冷えているのに」と一点だけ愚痴っていたのが面白かった。彼の研修レポートは日本肝胆脾外科学会のHPで公表されているので、興味ある方はご覧いただきたい (http://www.jshbps.jp/uploads/files/about/Vaibhav_Varshney.pdf)。

受け入れを再開してみて、症例検討のカンファレンスは英語になり、もどかしいところもあるが、彼らの独特の視点から質問がきたりすると、こちらにとってもいろいろな“気づき”があつて大変刺激的である。すでに帰国した中国人からは2023年の講演の招待（現状ではwebになりそうだが）がきており、インド人は滞在中に経験した珍しい症例のケースレポートを執筆してくれた。ブルガリア人はなぜか11月3日に“Greeting for Japanese Culture Day”（文化の日？）と称してメッセージカードを送ってくれ、アルゼンチン人は滞在最後の日に「来年再来日したい、できればアルゼンチンにもきてほしい」と言ってくれた。単発の訪問ではない、今後の交流の継続・拡がり予感される。コロナによる2年のブランクの反動なのだろうか、以前にはあまり見られなかった展開である。対面による国際交流の重要性を改めて感じた。

（長谷川 潔）

顧問 森岡恭彦 武藤徹一郎 今村正之 山崎洋次 幕内雅敏

名川弘一 亀岡信悟 國土典宏 幸田圭史

編集 佐野 武 長谷川 潔 船橋 公彦

定 価 3,080 円 (本体 2,800 円 + 税 10%)	臨床雑誌 外 科 第85巻 第1号 (1月号)	2023年1月1日発行 (1068号)
	編集兼発行者 東京都文京区本郷三丁目42番6号	小 立 健 太
	印刷所 東京都千代田区飯田橋二丁目15番5号	日経印刷株式会社
発 行 所	〒113-8410 東京都文京区本郷三丁目42-6 (営業) TEL 03-3811-7239 : 振替口座 00120-1-149 番	
株式会社 南江堂	(編集) TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660 https://www.nankodo.co.jp/	

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物の利用に関する原作者の権利は、株式会社南江堂が保有します。

・JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail : info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

広告申込所：〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目12番8号 日本医学広告社 TEL 03-5226-2791